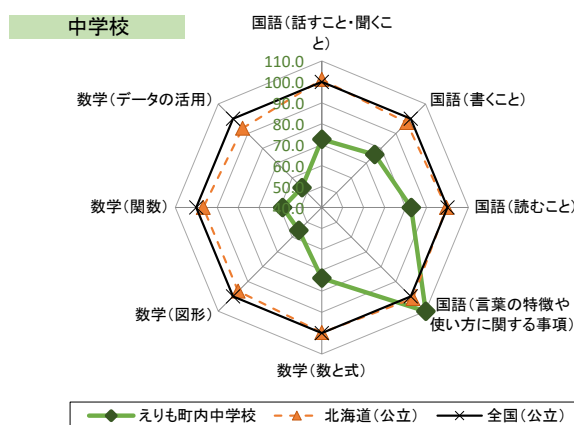
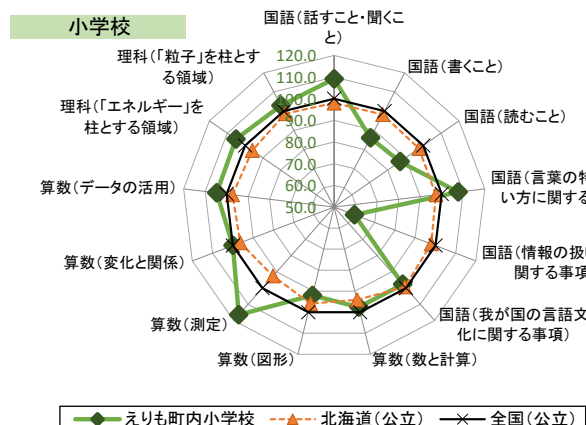


令和7年度全国学力・学習状況調査 えりも町内の状況及び今後の改善方策について

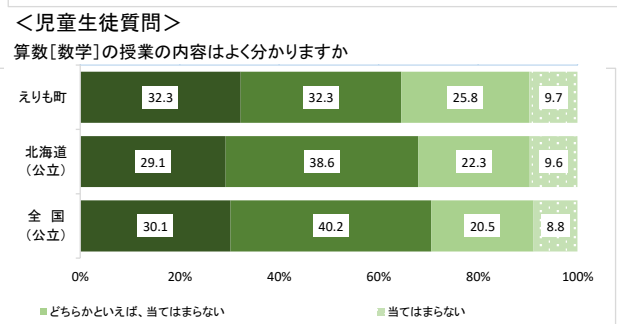
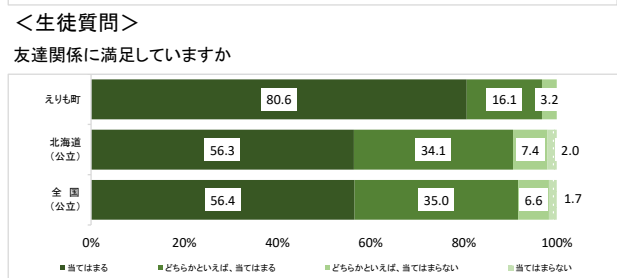
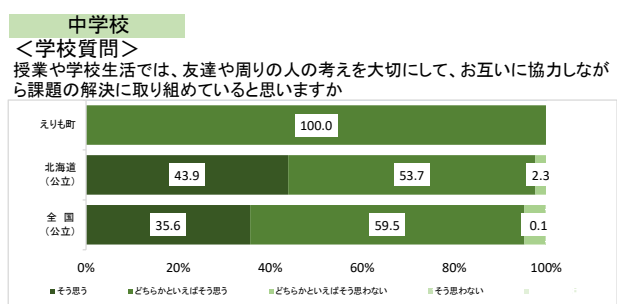
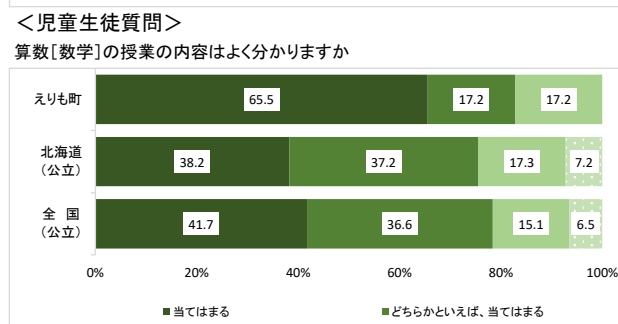
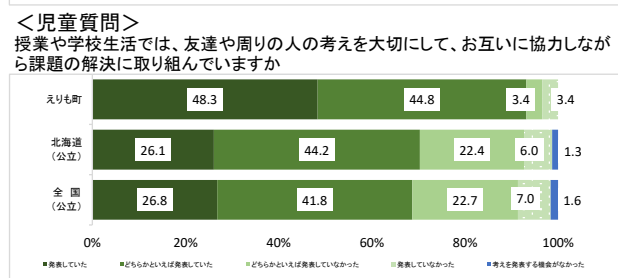
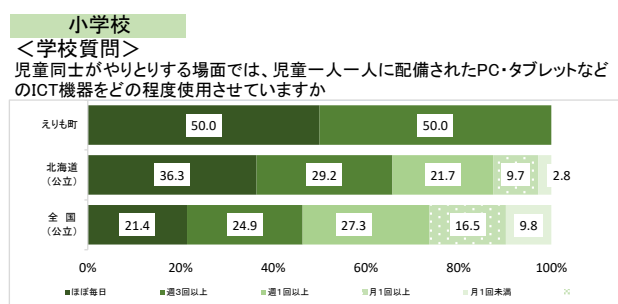
(小学校:4校 児童数:29人 中学校:1校 生徒数:33人)

○ 教科に関する調査の状況

- 【レーダーチャート】
- 教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
 - 中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません



○ 質問調査の状況



○ 調査結果の分析

- 小学校において、児童同士がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることに結び付いて、主体的対話的な活動が行われていると考えられる。
- 中学校において、授業や学校生活を送る中で、友だちや周りの人の考えを大切に、お互いに相手を思いやり、尊重しながら授業や学級活動ができていたため友人関係に満足していると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 小学校算数の平均正答率が全国及び全道を上回っている状況は、数学の授業の内容はよく分かったと回答した児童生徒の割合が全国及び全道を上回っていることから、要因の一つとして考えられる。また、中学校数学の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、数学の授業の内容はよく分かったと回答した児童生徒の割合が全国及び全道と同程度だが、学習後の振り返りなど家庭学習を含めた学習方法に課題がみられるものと考えられる。

○ 今後の改善方策

- 児童生徒の授業の理解度等に応じた指導方法の工夫改善を一層図り、児童生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する取組の推進
- ICT端末を活用した学習支援ソフト等による家庭学習の習慣化を図る取組の推進
- 小学校及び中学校における確かな学力の向上に向けた継続的、段階的な取組の強化